

東北がんネットワーク被災地視察報告（1）

日時：平成 23 年 4 月 9 日

訪問地：宮城県石巻市

訪問施設：石巻赤十字病院（ジェネラルリスクマネージャ・石井 正先生

訪問者：石岡千加史、森 隆弘、加藤俊介、有賀久哲（以上、東北大学）、根本建二（山形大学）、蒲生真紀夫（大崎市民病院）

訪問目的：被災後の石巻地区のがん治療の状況調査とニーズや今後の対応についての意見交換

1. 東北がんネットワークの活動として、被災地におけるがん治療の現状について調査して、地域全体での支援について具体的な活動を行うための情報収集を行うために、東北がんネットワークが行った東北地方全体のアンケート調査をもとに、石巻地区が最もがん治療に関する課題を抱えていると推測し、第 1 の訪問地とした。

2. 11 時に加齢研に集合し 15 分間事前打ち合わせ後、自家用車 1 台で石巻へ（12 時 20 分到着）

3. 13 時 30 分～14 時 30 分に石巻赤十字病院の会議室下記について意見交換を行った

（1）石井先生から、石巻赤十字病院が地域の災害拠点病院として当面は急性期疾患の対応を中心に診療を行うとの説明があった。（2）石井先生から、慢性期を含めての診療体制はある程度は整ってきたが、被災者が多く、避難所暮らしや交通手段が確保できない、日々の生活に追われて治療に専念できない患者が相当いるとの説明があった。（3）急性疾患に関しては呼吸器内科医と消化器系の内科医、腫瘍内科医、化学療法チームの派遣の要望があった。これに対して石岡が持ち帰って対応について検討すると回答した。（4）放射線治療に関しては、現時点では施設やマンパワーの点で何とか対応できるが、新規の治療症例が増えた場合の対応を今後考える必要がある。（5）緩和医療のうち、在宅緩和ケアは震災前まで主に開業医グループが精力的に行ってきたが、グループ医院が被災したため在宅緩和ケアが制限されている。（6）東北がんネットワークの活動として、今後、未受信患者の掘り起こしのために石巻赤十字病院から保健婦を通して難所等に相談窓口を紹介のパンフレットを配布することになった。

今後も、この地区のがん治療の在り方について継続的に検討することになった。

以上

